

【週刊タバコの正体】

Vol.39 第1話～第3話

2018/01 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 39

(No. 534) 第1話 30年

一将来の大人をしっかり教育すれば30年後にはもっと健康的な...

年が明けて平成30年(2018年)が始まりました。新しい年を迎えましたが君たちにとっては、これから始まる3学期は学年を締めくくる最後の大切な時期です。3年生は卒業、1・2年生は進級に向け気分も新たに精一杯、努力をしてほしいと思います。

さて、今年「平成」となって30年目を迎えました。30年という期間は十代の君たちには実感が湧かないでしょう、でも昭和生まれの皆さんの親世代には、「もう30年もたったのか」と感じる人も多いと思います。

そこで、左のグラフを見て下さい。これは50年前から現在までの、男性の喫煙率(左側の目盛)と肺がん死亡率(右側の目盛)を示しています。50年前(1965年)の喫煙率は、なんと80%を超えていました。今では信じられませんが、ほとんどの男性は喫煙者だったのです。しかし、タバコの有害性が世間に浸透するにつれ毎年喫煙者が減少し、2015年には30%にまで低下しました。その結果現在では、大半の大人がタバコを吸いません。

(No. 535) 第2話 無炎燃焼

一タバコの火は炎をともないが時間がかかて燃焼が進む...

タバコは人体に有害である事はくり返し伝えてきましたが、その被害が及ぶのは人体だけではない事を知っているでしょうか。

タバコは火をつけなければ煙がでない事を忘れてはいけません。つまり、喫煙中の灰の処理をはじめ、吸い終わった後の消火は確実にしなければ火災の原因になるのです。タバコの火の不始末が大きな被害をもたらす事を十分認識しておかなければなりません。

(No. 536) 第3話 家も命も

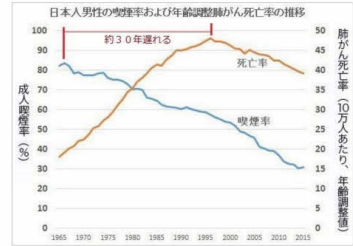
一タバコさえ吸わなければ失う事がなかった...

タバコは火災の原因となります。しかし、身近で火事を経験することはあまりありません。ニュースや新聞で目にすることはあっても、火事の現場に遭遇することはめったにない事だと思えます。では、いったい火事は全国でどれくらい発生しているのでしょうか。

そこで、下のグラフを見て下さい。一昨年(平成28年)の火災状況をまとめたものですが、全国の一年間で発生した火災は36,831件でした。その内訳を示した左端の円グラフを良く見て下さい。一番多いのは「放火」なのですが、次に多いのが「たばこ」で3,483件も発生しています。めったに遭遇しない火災ですが、全国的にはこんなに発生しており、そのうちの10%近くがタバコの火が原因なのです。さらに、真ん中のグラフを見て下さい。これらの火災で亡くなった1,452人のうちタバコが原因の火災で159人(11%)も人が亡くなっています。そして、右端のグラフには、放火を除けばタバコの火災が一番多いことが示されています。

2018 Jan-Mar 39 週刊 タバコの正体 第1話

年が明けて平成30年(2018年)が始まりました。新しい年を迎えましたが君たちにとっては、これから始まる3学期は学年を締めくくる最後の大切な時期です。3年生は卒業、1・2年生は進級に向け気分も新たに精一杯、努力をしてほしいと思います。



さて、今年「平成」となって30年目を迎えました。30年という期間は十代の君たちには実感が湧かないでしょう、でも昭和生まれの皆さんの親世代には、「もう30年もたったのか」と感じる人も多いと思います。

そこで、左のグラフを見て下さい。これは50年前から現在までの、男性の喫煙率(左側の目盛)と肺がん死亡率(右側の目盛)を示しています。50年前(1965年)の喫煙率は、なんと80%を超えていました。今では信じられませんが、ほとんどの男性は喫煙者だったのです。しかし、タバコの有害性が世間に浸透するにつれ毎年喫煙者が減少し、2015年には30%にまで低下しました。その結果現在では、大半の大人がタバコを吸いません。

ところが、もう一方の肺がん死亡率のグラフは、50年前より現在のほうが高くなっています。肺がんの大きな原因でもある喫煙率が下がっているのに、肺がん死亡率が高くなっているのはどうしてでしょうか。

じつは、タバコを吸って肺がんが発症するまでには、相当長い期間が必要です。一般的に「一日の喫煙本数×喫煙年数」が400を超えると、がんが発生する危険性が高くなると言われています。例えば毎日15～20本の喫煙者では、20～30年で肺がんになる確率が高くなるわけです。この関係を意識して上のグラフを見直して下さい。喫煙率が下がった30年後に肺がん死亡率が下がりはじめているのがわかりますね。

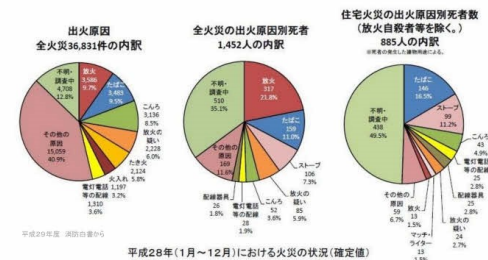
30年は平均的な親の年齢に相当します。つまり、タバコの影響は子どもが親になる頃に見えるわけです。君たちの世代がタバコを吸わなければ皆さんの子ども世代には、さらに健康的な社会ができていくでしょう。



2018 Jan-Mar 39 週刊 タバコの正体 第3話

タバコは火災の原因となります。しかし、身近で火事を経験することはあまりありません。ニュースや新聞で目にすることはあっても、火事の現場に遭遇することはめったにない事だと思えます。では、いったい火事は全国でどれくらい発生しているのでしょうか。

そこで、下のグラフを見て下さい。一昨年(平成28年)の火災状況をまとめたものですが、全国の一年間で発生した火災は36,831件でした。その内訳を示した左端の円グラフを良く見て下さい。一番多いのは「放火」なのですが、次に多いのが「たばこ」で3,483件も発生しています。めったに遭遇しない火災ですが、全国的にはこんなに発生しており、そのうちの10%近くがタバコの火が原因なのです。さらに、真ん中のグラフを見て下さい。これらの火災で亡くなった1,452人のうちタバコが原因の火災で159人(11%)も人が亡くなっています。そして、右端のグラフには、放火を除けばタバコの火災が一番多いことが示されています。



このデータをみれば、やっぱりタバコの火による災害は無視できない事を実感してもらえたと思います。タバコの火の始末さえ、確実にしておけば防げることができた火災が3,483件もあって、159人の命は失わずに済んだはずでした。

タバコさえ吸っていなければ、家も命も失わずに済んだはずでした。



毎週火曜日発行



URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

